



発行所
鹿兒島市山下町4-18
鹿兒島県教職員組合
発行人 中川路 守
編集人 本田 真知子
(一部18円)
TEL 099(223)8345
FAX 099(225)1358
E-mail:kjtujousenep@g-coop.com

組合員の購読料は
組合費に含まれます。

12 6 5 1
面 面 面 面
11
4

「ゆるやかな運動・楽しい団結・いのち喜ぶ活動」をすすめる退教協活動報告
今月の分会活動・衛生委員会
退女教Q&A
たのしさいっぱい退女教活動報告

集い
語り合い
つながる

退職しても仲間とともに 2024

～県退女教・県退教協の各地での活動より～

2025年3月に退職予定のみなさん、長い間、おつかれさまでした。私たち退女教・退教協は、退職後も仲間とのつながりを大切に、いろいろな活動を続けてきています。みなさんの新しい活力で、運動がさらに強化されることを期待して、各地での運動を紹介します。

たのしさいっぱい退女教活動報告

◇鹿兒島地区支部 本音で語れる仲間とつながる 会員数 80人

退職後、人生はますます夢だらけ！年を重ねてそれぞれがとりくむ新しい仕事や趣味、健康づくり、お洒落、家族の世話、介護等に人生の機微を味わう日々です。そんな中でも本音で政治の話もできる組合ならではのつながり「退女教」です。



今年の隔月第2月曜日のつどいでは、外部講師によるアロマスプレー作り、会員講師の介護保険学習会、会員同士の活動発表会、去年から再開のバス旅行などを開催しています。また、夏の現職女性部研修会や冬の母女の会に参加し、学習と交流をしています。これらの様子は支部退女教だよりで全員にお伝えします。居住地中心に9班に分かれて、班ごとのランチ会で親睦も深めています。退女教の仲間はきっとあなたの心の支えになります！



◇指宿地区支部 やっぱり現職と退職者の交流は大切！

会員数 22人

今年度は22人(うち現職3人)でスタートしました。月1回の定例会には10人くらいが集い、うたごえでフレイル防止(?)をしてから語り始めます(語ることもフレイル防止?!)。

この夏、念願の合同学習会が実現しました。現職16人(うち未組織者1人)、退女12人という予想を大きく上回る参加者数で、久しぶりに揖宿教育会館が賑わいました。『みどりの山河』の歌詞に込められた意味、退女教の歴史、自作の紙芝居『おばあちゃんの海』、太極拳で心と体のセルフケア、3分散会で語り合った特別支援教育の現状と課題、分散会報告、感想発表までの約3時間、あつという間でした。「退女教の歴史を聞いて有難かった。やっぱり現職と退職者の交流は大切!!」という感想もいただきました。来年もやりますよ～!

◇南薩地区支部

語ることに元氣のもと

会員数11人

毎月季節の歌(平和の歌も)で例会が始まります。健康面や介護等で参加できない仲間の近況を確かめ合ったり、それぞれの状況を出し合ったりと貴重な情報交換の場になっています。

今年は5月に大浦でのランチ、野間池へのドライブ(漁協でタカエビをわけてもらう!)と楽しい半日を過ごしました。また、数年来とりくんでいる245T剤埋設問題については、現場近くの公民館長さんと情報交換ができました。さらに、指宿支部・現職との交流も広がってきています。

会員一人ひとりがそれぞれの持ち味をいかして和気あいあいと活動しています。退女教の歴史をふまえ、自分たちの地域にめをむけ、みんなでゆっくりとすすんでいきたいとおもいます。

◇日置地区支部

みんなで楽しく!!

会員数26人

隔月の集いは、14～15人の参加です。近況報告は、それぞれの状況や思いを話し、学び、癒し笑いあり等共有・共感する場になっています。また、毎回弁当をとり和やかな雰囲気での食事に退女教会員でよかったと改めて感じています。

介護について「在宅介護まっただ中」の会員の現状を全員で語り合い共有し、県学習会提起にむけて全員でまとめることができました。

10月県議会議員の柳 誠子さんに、豊富な経験を基に、衆議院選挙・百条委員会・介護他諸問題について講話をしていただきました。多くのことを学び知る機会になり、有意義な時間を過ごせました。

「元気をもらえる」「次回が楽しみ」の声をいただける“来てよかったと思える集い”をめざしていきたいです。

◇川薩地区支部

楽しく・つながって!

会員数15人

毎月第4水曜日は例会です。その中でおしゃべりの時間を増やしたのですが、楽しくていつも時間不足です。例会後に食事会をします。3月は花見、11月ミニ旅、12月忘年会と弾みます。今年9月は包括支援センターから講師の方に来ていただき、いざという時の制度や施設利用法を学びました。

昨年12月、さつま町弾薬庫建設問題が浮上しました。とんでもないことで、反対の行動をしています。鹿児島市議選、衆議院選挙にもとりくみ、応援した候補者がよい結果となり、みんなで喜びあいました。

会員の高齢化がすすみ、健康の問題を抱える仲間が増えていることや、会員拡大がすすまないことは悩みですが、和気あいあいと、楽しくつながって、充実した川薩支部です。

◇出水地区支部

「思い」を共有

会員数40人

出水退女教は、月2回の定例「おしゃべり会」の他に、退教協と一緒に忘年会(12月)・歓迎会(4月)・

総会(8月)を実施し、その時に憲法学習、グランドゴルフもしています。前もって近況報告を募り「退教協だより」として全員に配布します。

さつま町弾薬庫建設計画が発覚してからは、反対のチラシ配布やスタンディング活動にも、川薩地区支部と一緒にとりくんでいます。

定例会では、季節の歌の後、ニュースや新聞記事で気になったこと(軍備増強~介護など)を出し合い幅広く「思い」を共有しています。今年、朝ドラ『虎に翼』に共感する話題が多かったです。12月には忘年会、4月には花見で、いつもは来られない人も参加して交流を深めました。



◇始良伊佐地区支部

さわやかにパワフルに

会員数 68人

活動の中心は月1の例会「なかまの集い」です。

例会は「学習会」中心の時と、近況報告から時事問題まで多岐にわたっておしゃべりする「ナンデンカンデンカタイモンソ」中心の時とがあります。

今年度は、「反戦・平和学習」の一環として、戦争を体験した方のお話を伺うことができました。

また、「後輩のお話を聞こう」を設定し、働き続ける60歳から65歳くらいまでの会員の現況を知る機会を得ました。

先の衆議院選挙では、連帯する立候補者への応援に努め、行動しました。私たちの思いが伝わったその結果に、みんなで喜びを分かち合いました。

始良・伊佐支部はパワフルに学び、楽しむ人たちの集まりです。

◇肝属地区支部

今年もさわやかに

会員数 51人

今年度は曾於在住の方の新加入で、やったあ!感謝!毎月第一木曜日の定例会を、火曜日に変更してスタート。

自身の健康問題、家族の問題、みなさんいろいろな事情を抱えながらの参加です。その中で、時々顔を見せて下さる94歳の先輩会員に、いつも元気をもらっています。

近況報告、情報交換、楽しい活動(七夕飾り作り、刺し子)で笑顔に。語れてよかった、参加してよかったと思う時です。

これからも繋がりを大切に、仲間っていいなと感じられる活動を続けていけたらと思います。



◇熊毛地区支部

繋がりを大切に

会員数 9人

昨年同様「無理せず できることを」の言葉のもと、仲間に見えるのを楽しみに退女教の会兼食事会を実施しています。以前に比べ、集まる機会は少なくなりましたが、健康・介護・選挙・馬毛島問題・日常生活のことなど会話は弾みます。

先輩の「馬毛島では工事が着々とすすんでいるが、基地建設反対を叫び続けていこう。これからも馬毛島をテーマに活動してほしい」という言葉に大きく頷く私たちでした。

仲間がいることに喜びを感じ、心も軽くなり、明日への活力の源になっています。

屋久島と種子島、離島が故の課題もありますが、メールや電話で連絡をとり合い、繋がりを大切にこれからも活動を続けていきたいと思えます。

◇奄美地区支部 歌って・語って・“どうくさ(健康で)しんしょろ!(過ごしましょう)”

会員数 51人



喜界島・奄美大島・徳之島・沖永良部島、それぞれの島に会員がおりますが、一同に集まることができず、それぞれの島で集い仲間の繋がりをもつところもあります。

主に本島(?)内の会員(サークル ゆらい塾)は、毎月の計画で活動しています。その他、月の第1金曜日夕方、自衛隊対ネット(戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット)主催の呼びかけで、集会に参加しています。ゆらい塾の年齢も年々高くな

りつつありますので、今まで2年の世話係・役員を1年交代に切り替えて活動することにしました。会員の親睦はもとより、支部女性部活動(総会・母女の会)への参加協力を目標に掲げています。

昨年11月の共助会主催のグランドゴルフ大会への参加。3月の支部母女の会へは12人参加(昨年度8人)。9月共助会主催の「お楽しみ芸能祭」への劇・コーラス参加。10月には、大和村にできた奄美初めての温泉付き観光地「ハナハナリゾート」へ一日遠足に出かけました。久しぶりの遠足(21人参加)でしたのでバスの中は、小学1年生にもどったような賑わいでした。帰りのバスの中では、今後の活動計画について話し合ったり、忘年会(退教協合同)の出し物について語りあったりすることでした。今年度から、加計呂麻島に住む会員も参加されて、懐かしい仲間と昔を語り合いながら笑顔いっぱいの1日でした。



退女教 Q & A

ひとりでも多くの仲間と 楽しみや悩みを共有しながら よりよい高齢化社会を築いていくために

Q1 「退女教」って？

A1 「退女教」とは、「退職女性教職員連絡協議会」の略称です。「全国退女教」と連携しています。
また、「県退女教」の運営を円滑にするために、各支部に「支部退女教」があります。

Q2 なぜ「退女教」をつくったのですか？

A2 わが国の退職者の組織化が、まだほとんどとりくまれていない中で、他に先んじて「全国退婦教」が結成されました。

当時は、恩給や年金があまりに安く、特に女性は、男性より安かったため、生活は苦しく、早急に恩給・年金のベース改定や、スライド制実現など、生活と権利を守るための対策の必要に迫られていました。

だから、全国的な組織をつくり、国会や政府へ法律改正を求めるときだという声が増しに高まってきました。

また、地域社会のために現職者と連携し、地域の民主的女性の運動の推進力となることが求められていました。

1960年代に入り、日教組婦人部は、退職者の組織化を運動方針の中に掲げ、数年がかりで各級段階での組織化に努力を傾注し、1967年全国準備会において現職女性教職員と退職女性教職員が大同団結することを確認し合い、1968年結成されました。

「鹿児島県退女教」は、1972年に発足し2024年6月に「第53回定期総会」を開きました。

Q3 この会の目的・趣旨は？

A3 会員の福利厚生・経済的・社会的自立を図ります。例えば、

- ① 会員相互の親睦と学習。
- ② 退職手当・年金・医療制度・介護保険制度の改善等、社会保障の確立に関すること。
- ③ 自立した女性団体として、女性解放に関すること。
- ④ 民主教育と平和擁護と護憲に関すること。
- ⑤ その他、この会の目的達成に関すること等々事業を行い、自立した生涯を自らの手で切り拓くパイオニアとしての活動をします。

Q4 なぜ「退教協女性部」ではいけないのですか？

A4 戦後、70年余経過し、女性の生き方は大きく様変わりし、徐々にではありますが、社会的・文化的・経済的にその地位を得つつあります。

しかし、今日女性は真に自立し、人権を確実なものにし得たといえるのでしょうか。

私たち女性自身にも、『女だから』『女はやっぱりこうあるべき』という意識が残っていて、女なるが故に、老いをも生きにくくしている面がないとはいえません。

税制・年金問題等、働き続けて自らの年金で退職後の生活を支える女性にとって、より厳しい側面があります。

これらの制度は、どこが矛盾し何が不公平なのか、まず、私たち女性自身が学習を深め合い、見抜いていく力をつけていかなければなりません。

「男女共同参画社会基本法」「改正男女雇用機会均等法」「ドメスティックバイオレンス防止法」など、女性を後押しする法律が次々と出されたとはいうものの、現実社会における実効性については、まだまだ今後の課題です。

「高齢者問題も女性問題」と言われます。高齢社会になり「介護は女性の役割」とする社会通念がある中で、「女性問題は解決しているのだ」という錯覚に陥らないように「全国退女教」も、今「真の女性解放（人間解放）の視点を持った自立した女性団体」としての再度の自覚を呼びかけ、各県へ「女性団体としての組織の確認」をうながしています。

だから、「退女教」の存在は必要であり、課題は山積しているのです。

Q5 どんなふうに参加しているのですか？

A5 私たちは、「老後を楽しく生きいきと最後まで人間らしく生き抜くためにできるだけ多くの仲間と集い どんどん高齢化するお互いだから無理をしないで ゆるやかに 厳しい現実だけど和やかに 人権意識をもって 堂々と前むきに」をモットーに、学習会・要請活動・親睦会等々を行っています。



役員名	会長	副会長	事務局長	事務次長	会計監査
二〇二四年	大山 高枝	篠原 千代子	武 さとみ	齊藤 律子	片平 由美子
					迫 睦子
					福 貞子

本部役員

鹿児島	指宿	南薩	日置	川薩	出水	始伊	曾於	肝属	熊毛	奄美
中道 美和子	北 由利子	内園 みどり	西 ツキエ	麻生 将子	山内 和代	平山 みき	松下 直子	迫 睦子	徳浦 洋子	上原 恵美子

支部体制

「ゆるやかな運動・楽しい団結・いのち喜ぶ活動」を すすめる退教協活動報告

県退教協では、退職教職員の福利厚生をはかり、経済的・社会的・政治的地位の向上をはかるとともに、鹿教組と密接な連絡のもとに、一体的に運動をすることを目的として、総会、宿泊研修会、支部代表者会、組織・教育文化・福祉部の各専門部会を開催し、年6回のたよりを発行しながら運動にとりくんでいます。

また、各地区でも、それぞれ総会、役員会、学習会、レクリエーション活動、サークル活動、たよりの発行などにとりくみながら、各地区の平和・人権・環境などの課題に、他の組織とも連携しながら、運動をすすめています。

鹿児島地区支部

定年退職後は退教協加入を

吉村 公宏

定年が1年延長され、2年ぶりに定年退職される皆さん、退職おめでとうございます。

私は、8年前の退職者です。退職前、退職者説明会を都合が悪くて欠席したまま退職してしまいました。退教協には当然加入しているものと思っていましたが、加入届を提出していない私は未加入のままでした。自宅近所の退教協加入者の声掛けで未加入だと判明し、急いで加入届を提出した次第でした。組合員でも定年退職後そのまま退教協に加入できるのではなく、加入届を提出しなければ、加入できないのです。皆さんは、加入届をくれぐれも忘れないください。

退教協の会員は、これまで本音で語り合い支え合ってきた組合員の仲間です。主な活動としては、親睦会、スポーツ大会、学習会等で、自由に参加できます。また、会員には、人生経験豊富な先輩方が多数いらっしゃるので、年金問題・健康問題等々に、私たちの人生に心強いアドバイスをいただけます。

会費は鹿児島支部で年3000円と、これまでの組合費に比べ驚くほど安いです。昨年は、退職者がいっしょになかったので退教協加入者がなく、さびしい思いをしていましたが、今年は退教協の仲間が増えるので楽しみです。皆さんの退教協加入を心よりお待ちしておりますので、一緒に退教協活動を楽しみましょう。きっと、退職後の人生が豊かになりますよ。

揖宿地区支部

退職後も仲間とともに！

迫田 弘昭

ここ数年の学校現場は厳しい状況だったと思います。退職される先生方、本当にお疲れ様でした。退職後の人生をどう生きるか？「退職したら組合活動やら学校やら、もうよか！」と思う先生方も多いと思います。一年間くらいはゆっくりされてください。でも平均寿命から考えると、その先がまだまだ長い人生です。

揖宿地区の退教協は、指宿市、旧喜入町、旧穎娃町居住の退職組合員で構成されています。昔、同僚だった仲間、一緒に組合活動をした仲間など身近な人が多いです。毎週月曜日10人くらいで行うグラウンドゴルフは初心者から上手な方まで様々な方が集まります。和気あいあいの中でけなしたり、けなされたりで笑いが絶えない時間です。私も2年めでやっと先輩方の後を着いていけるようになりました。毎週土曜日はテニスサークル、月2回「碁を打つ会」、第3水曜日「ごまめのはぎしり」での学習会、4月は定期総会と新加入者歓迎会、7月はグラウンドゴルフ大会 & 交流(飲み)会、8月は人権・平和について夏季学習会、10月は南薩退教協との交流グラウンドゴルフ大会、12月がグラウンドゴルフ大会 & 忘年会です。このように1年を通して仲間内の親睦、交流を行っています(もちろん参加は自由です)。

歌手の加藤登紀子さんのことばです。「生活力」には二つあるんです。一つはお金を稼ぐ力。もう一つは自分の身の回りのことがちゃんとできること。これはどっちも大事なんだけど、みんな「生活力」と言えば稼ぐことだと思込んでしまってるのよね、この国は。日本の男はダメね。二つの生活力がないから。特に高齢者に必要なのは、「二つめの生活力」なのよ。だから、仕事をやめて稼がなくなったら生活力がなくなっちゃってるでしょ。男性は依存し過ぎだし、依存しているという自覚さえない男性が多いわよねー」妻に先立たれ、一気に衰えがすすんでしまう男性が多いのは「二つめの生活力の無さ」も大きな原因かもしれません。二つめの「生活力」が付くかは分かりませんが、楽しい人生をおくるために仲間と語り集う退教協活動を利用されてください。

南薩地区支部**退教協の活動をつうじて**

東 恒夫

かつて青年部のえびの集会を始め、鹿教組運動の中で「〇〇の南薩」といわれながらも活動を続けてきた者も、すでに60代後半から70代にさしかかってきた。それぞれの出身地で退教協の中でしっかりと活動している姿に出くわすと、〇〇の意味が、愚直なまでにこだわり続ける姿勢を言われたのではないかと今思う。

どこでも同じような状況であると思うが、高齢化現象は退教協の中でも深刻な状況である。これまで退職したら退教協加入があたり前と思っていたことが、定年延長、再雇用などで、退教協への加入に大きな障壁となっている。現職時代に「組合員の組織拡大」を活動の重点課題にしてきたが、今「退教協の組織拡大・組織強化」を背負いながら組織運営をしている。展望をどう開いていくか、大きな課題である。

機関誌のて配り体制を続ける中で、かねて顔をあわせる機会の少ない会員とふれあい現状を掌握し、それを会合の中で交換し、会員の現況の交流・共有を重ねている。

会員の高齢化により、日常的に交流する機会が減ってきているのが現実で、なにがしかの形で、かつての仲間がつながれる機会を作ることにはできないものかと模索している。鹿教組の中で育んできた「連帯」を呼び戻すことはできないものか。手と手を結んできたスクラムを何かの形で再現することはできないものか。足腰が弱り、日常生活がおぼつかなくなってしまっても、「〇〇の南薩」は会員のつながりと支えあいにこだわって日常を展開したい。

グラウンドゴルフに集まる者たち、歌うために集まる者たち、何より9条にこだわる者たち、共助会の活動と重ねて会員をつなぐことにこだわる者たち。いろいろな行動が会員の中に広がり、お互いがつながることを何よりも大事にしていきたい。

日置地区支部**退教協活動を楽しんで**

高橋 宏明

日置地区退教協は、現在62名です。年々高齢化が進んでいますが、年によって加入の増減はありますが、楽しい退教協を目指し活動を進めています。

4月には、退女教との合同の総会を開催し、新加入者の歓迎会も行っています。

互いの健康維持のため、グラウンドゴルフ同好会を結成し、同好会は20年以上続けてきています。

週2回のグラウンドゴルフは、笑いのオンパレードみんなの笑顔がはじけます。また、他支部との交流も行っており、毎年10月下旬、南薩地区との親善交流大会も行っています。

「労金友の会」では鹿児島地区との交流大会を春夏2回行っています。

もう一つの楽しみとして、鹿児島地区と1泊2日の「小さな旅」に昨年参加しています。今年は38名の参加がありました。

旅は、九州管内の観光地を巡るだけでなく、ホテルでの夜の交流会もにぎやかです。宴会では

カラオケあり、踊りあり盛り上がりがすごいです。また、二次会での交流では、いろいろな話題が飛び交い大変楽しいひと時を過ごすことができます。

今年の旅行地は、大分県日田市を中心とした観光でした。ビール工場見学では直のビールだけにとっても美味しかったです。

ほかには日田市の豪商廣瀬久兵衛屋敷や、野田町の散策、破傷風の発見とその治療にあたった「北里柴三郎」の記念館を訪問し、その業績を学習しました。

阿蘇の植物园にも行き、ヒゴダイ・アケボノソウなどめったに見られない野草に巡り合い、とすると心が乾いてきているなどと思う自分が感動する喜びを味わうことができリフレッシュすることができました。

退職予定のかたは、ぜひ退教協に加入することをお勧めいたします。

川薩地区支部

遠嶋 春日児

現役の時、人事異動で赴任した学校には、必ず組合員がいて、無条件に信頼でき、すぐになじめたことは大変ありがたいことでした。

私は故あって50歳で退職しました。厳密に言えばこの時から退教協のメンバーになったのかもしれません。しかしながら、議員並びに議員になるべくしてやらなければならなかったことがあり、退教協の活動はできませんでした。

議員を69歳で引退しましたので、この年から正式に退教協のメンバーとして活動することになりました。川薩管内はもとより、県下全域で共に組合活動をした仲間たちがいることは大変うれしい限りです。大きな行事があるたびに懐かしい顔を拝見し、元気が出てくることでした。引退して1年間はフリーにさせてもらいましたが、2年めから地区退教協の役員をすることになり、課題解決にむけて仲間とともにとりくんでいるところです。国内・県内・地区内には千差万別の考え方を持っておられる人々がいる中で、ほぼ同じ考え方を持っておられる仲間がいるというのは大変ありがたいし、心強いことです。

まだ役員になって9か月ほどです。これからも、子どもたちが安心して学び、楽しく過ごせる教育環境作り、反核・反原発の平和な社会の構築にむけて、退教協の仲間たちと粘り強く、したたかに、そして楽しく頑張っていきたいと思えます。

最後に、退教協のメンバーも高齢化してきており、人数も減少気味です。まず、お互いに健康には十分留意し、一日でも長く闘い続けられるようにしたいものです。県下の退教協の仲間の皆さん！したたかに、しなやかに、そして元気に頑張ってくださいませ！

出水地区支部

社会とつながる

鶴木 正明

先日、久しぶりに退教協の仲間の皆さんとカラオケに行きました。月1回の例会のあと、誰かの「久しぶりにカラオケ行こうか！」の一声で決まりました。みんなでカラオケに行ったのは何年ぶりでしょうか。感染症の流行で自粛生活が始まる前までは、例会のあとは必ずカラオケに行くのが定番でした。久しぶりのカラオケは大盛り上がりで、本当に楽しいひと時でした。

出水退教協に加入して11年が過ぎようとしています。高齢の母と孫たちの世話が生活の中心である私にとって、出水退教協の仲間の皆さんとの繋がりは、唯一の社会との繋がりになっているのではないかと思います。

さらに、出水退教協の仲間との繋がりは、県退教協との繋がりにもなります。毎年開催される県退教協研修会は、そのことを実感させてくれます。本年度は「曾於・肝属」大会が肝属教育会館にて1泊2日で開催されました。各支部の退教の仲間の皆さんと出会えるのも楽しみの一つです。懐か

しい人たちとの再会と語り合い、学びあう楽しさを味わうことができます。今回は、石川直子さんが「性同一性障害の子どもをもった親として」という題でお話された研修が特に印象に残りました。心に響き、胸が熱くなる内容でした。

来年度は、奄美で県退教協研修会が開催されるとのことです。奄美は初任地を含む2校8年の勤務経験がある懐かしい土地です。そして退教協に加入した年、私にとって初めての県退教協研修会も奄美でした。また、懐かしい土地で懐かしい仲間の皆さんと出会えることを楽しみにしています。

始良伊佐地区支部

思うこと

前田 潤一

日頃何となく思っていたことが3日続けて新聞に載っていたので本稿を記す。

一つめは、記者の目のコラム「美しい町」。湧水町のコスモス畑、広大な水田、栗野岳や川内川等自然の豊かさを称賛した内容。

二つめは、「ひろば」欄の、リハビリの帰り落ちていた吸殻を拾って帰ろうとすると停車中の軽トラックのドライバーから「それ荷台に投げ入れてください」と声をかけられた。自宅まではあしどり心も軽かったという投稿。

私もウォーキングの時は必ずスーパー袋と火ばさみをもって出かける。たまに知らない人からわざわざ車を止めて「ありがとうございます。」と声を掛けられることがある。捨てる人、拾う人、拾う人に感謝する人、人はさまざまである。

さて、「美しい町」とはどんな町だろう。私は、ごくありふれた風景でも、ゴミが落ちていない清潔できれいな町、即ち住む人の心が美しい町だと思う。

三つめは、「一人で生きる。みんなで生きる。(川名紀美)」の連載の最終回。「人とかかわることは、めんどうだ。傷つけたり傷ついたり繰り返す〜」で始まる。この稿の中に、「私の冷蔵庫には塔和子さんの『胸の泉に』という詩が貼ってある。」とあったので気になり調べてみた。その詩は、「～ああ何億の人がいようとも かかわらなければ路傍の人。私の胸の泉に枯れ葉一枚も落としてほくれない」と結ぶ。

かかわるか、かわらないかは人の自由だ。でも人とかかわることは、良いにつけ、悪いにつけ刺激的で精神を揺さぶる。

退教協は、間違いなくその選択肢の一つではある。

曾於地区支部

町代表者に感謝

図師 国人

曾於の会員には、今年百歳になった会員がいる。県下の会員の中では最高齢だと思っている。南日本新聞にも、今年百歳になった人の記事に写真入りで出ていた。N会員である。

私が会員に加入したのは20年前で、その時N会員は80歳。退教協活動を積極的にされていた。総会の後の歓迎会では、畑仕事（特に落花生の育て方）など、また同好会活動での山登りや碁会など積極的に参加され、活動されていた。碁会では、碁と碁の間の時間にいろいろなことを教えてもらった。

私も今年、退教協に加入して20年が過ぎる。町の代表者になり配布物を配ったり、山登り同好会（春と秋の年2回、キリシマミヤマツツジや紅葉を見る）、碁同好会、パークゴルフ同好会などに参加したりと活動してきた。70歳前半頃まではたくさんの会員がいて、どの同好会活動も活発に行われていた。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まった頃から、同好会活動が少なくなり、また、高齢化がすすみ曾於の退教協活動も減少するようになった。

私の生活も、病気をしたり手術をしたりして、県への出会や後援会活動が思うようにできなくなっ

てきた。でも、今から20年前のN会員（当時80歳）の活動を思い出すと、もう少しは活動を頑張らなくてはと思う。

曾於の活動もあまり活発ではなくなったが、まだまだ頑張ってくださいる会員もいるので、少しでも若い人の加入があれば活動が活発になるのだが。百歳の会員を目標として。

肝属地区支部 **物を言い続ける年寄り集団にあなたも入りませんか！** 松尾 広豊美

退教協に加入した最初の歓迎会。びっくりした。年寄りだらけで。そして、10年がたった。

退職して最初の4～5年は、米作りの為連日田んぼに出かけた（車で25分程度）。米作りは、全くの素人のため稲とヒエの区別もつかなかった。山間の水路を数日かけて整備し、水を田んぼに引き入れることさえも大変だった。大雨の時は、崖崩れの心配をしたり水路が決壊したり土砂で水路が埋まったりは、日常茶飯事で難儀の連続だった。猪よけのため田の周りを鉄柵で囲んだりもしたが、ついに水の確保が困難になり米作りを断念した。この間の米作りに関して、退教協の先輩方に多くの知恵を借りてきた。

並行して退教協の活動もとりくんできたが、肝属支部での在籍年数が短かったため、退教協の先輩たちをよく知らなかった。

役員会は毎月実施されていたので、顔と名前を覚えることに努めたが、忘れるのは早く覚えるのは遅いので苦労した。始めは福祉部に籍を置き旅行などを計画し、甌島など各方面に出かけ楽しい夜を先輩方と共に過ごした。

役員会では物を言う先輩方が多く、議題から外れてしまうことも度々で、9時に始まった会はいつも12時にならないと終わらないのだ。最初はこの長さに閉口していたが、言いたいことをいう元気な先輩（年寄りたち）が多いからと諦めている。

そして今、ほんの少しだけ農業の真似事をし、暇を見つけては海に魚を求め、下手ではあるがくるつちのゴルフ（ほぼ最下位）に参加し、自分なりに余暇を楽しんでいる。先輩方とも仲良くさせてもらっている。

いつもは会えないけれど、地域のいたるところに多くの退教協の仲間たちが居るということは、心強いし私の大きな支えになっている。

熊毛地区支部

ふるさとはない

宮里 照夫

早朝5時。家の前の自販機で缶コーヒーを買う。見上げると満天の星。街灯にタバコの旗がゆらめく。私の母校、荃南小学校。地元で暮らしている自分はこれまで1949年生まれの同窓会の世話係をしている。「ふるさとは、もう何もない。帰る気持ちはない」という岡山県玉野市居住の同窓生。彼の生まれは、現在の大崎のロケット発射場の集落。宇宙開発事業団の誘致により、集落全部が移転した。18歳の高校生まで暮らした彼の集落は、野山も道路も、小川さえ消えている。「お前が育った時のように、星空も、種子島灯台の灯りも、浜辺を吹く風も何も変わっていない。帰って来ないか」と言っても、「いや、ふるさとの景色が微塵もない。帰ろうと思う気が起きない」という。彼は小・中学校時代、約2里8キロの山道を徒歩で通学した。自家用車など誰も持っていない時代である。50年前の貧しくて、つらい暮らしのふるさとである。

県議会の委員会採決で、川内原発の県民投票条例案が否決された。本会議での採決が問われている（否決された）。

原発の事故は起こり得る。もし事故が起きた時は、福島原発の二の舞となる。なぜ県民投票さえ、否定されるのか。なぜ過去の事実を蓋をするのか。なぜ、そこに住む人々の暮らしを奪うのか。なぜ県民の声はもみ消されるのか。

同窓生の彼は言う。「お前の顔も見たい。昔話もして、幼い頃に戻ってみたい。だが、自分が暮らしたふるさとは、もう何一つないのだ」

もはや平和で心豊かな社会を作るには、自然の摂理を愛する心と、宗教の力にしか方法は無いのではないかと思う。人の知恵は遺伝しない。であれば、学習するほか道はない。

奄美地区支部 現職時代に学んだ「平和教育」を「平和運動」につなげよう！

文澤 竹弘

長年にわたる教職員生活そして「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、組合活動へのご尽力に敬意を表します。

おそらく、多くの方が再任用されると思いますが、これまでより少しはゆとりある生活してもらいたいものです。

さて、現在世界では、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの戦争が勃発しており、暴力と憎しみの連鎖が続いています。

ご存じのように日本も南西諸島防衛という名の下にこの奄美には戦争になると一番先に狙われるであろう「陸上自衛隊ミサイル基地」ができ、「弾薬庫」もできつつあります。

「戦争は中毒」です。一度始めたらなかなか止められません。そうなる前に対話や話し合いで解決しなければなりません。しかしながら、日本政府やアメリカ政府はそのような方向へむかおうとはせず、「防衛力強化・抑止力強化」を目指しています。

「教え子を再び戦場に送らない」ためには“一人の100歩前進よりも、100人の1歩前進”が重要です。

《退職教職員が関わっているおもな平和運動》

- ① 毎月1回（第1金曜日の夕方）市街地交差点での反戦平和スタンディング行動。

この中で戦争反対を訴えています。また「自衛隊員を兵士として戦場に送るな」「自衛隊員の家族を悲しませるな」も訴えています。

- ② 5月3日の「憲法記念日集会」
- ③ 8月15日の「敗戦記念日集会」と「平和のための戦争・絵画展」
- ④ 10月21日の「10・21国際反戦デー集会」
- ⑤ 12月25日の「奄美群島日本復帰・平和集会」等

今年度新たな試みとして、他の平和団体と連帯して11月に「反戦風あげアクション」も行いました。

それ以外にも、教職員共助会主催のイベントに協力して、お楽しみ芸能大会やグラウンドゴルフ大会、無農薬コーヒー豆摘みと焙煎・試飲体験等も行っています。

現職時代に学んだ「平和教育」を今後も退教協の一員としていっしょに「平和運動」につなげていきましょう！

退教協へのご加入をお待ちしています。

12月の分会活動 チェック

- 分会会議を開きましたか。
(週1の開催が理想。)
- ・日々の教育活動や子どもたちをとりまく環境などについて疑問点や課題点を出し合っ
て、語りましょう。
- ・冬休みの勤務にむけた交渉を実施しま
しょう。
- 人事異動の学習を行いましたか。
- ・支部等の人事学習会に参加しまし
ょう。
- ・不明な点は地区協・支部・本部に確認しま
しょう。
- 冬休みの勤務・人事異動に関する交渉をし
ましたか。
- ・「教育かごしま」にある県教委との確認事項、
交渉経過を確認しましょう。
- ・夏休みの勤務や昨年度の問題点をあきらか
にし、改善をもとめましょう。
- 2025年度の教育課程編成に関する交渉をし
ましたか。
- ・「組合員のとびき2024」p185～194・組織
部からの指示文書をもとにして、業務改善
につながる日課表・行事・授業時数の工夫
を提案しましょう。

12月の衛生委員会

事前に…Ⅰ分会会議で出た意見等をまとめておく。

Ⅱ職場全体の超勤時間はどのくらい
だったかを提示するように管理職に
要求しておく。

☆ ()月()日、校内衛生委員会に参加する。

① 提示された超勤時間を分析し、超勤の原
因について考え、改善点を出しあう。

★ 時間外在校等時間の上限は「月45時間、年
360時間」です。「年間360時間」は、月平均30
時間となるので、注意する必要あり。

② 持ち帰り業務が行われているにもかか
わらず実態把握がなされていない学校は、
実態把握を行うとともに、業務の縮減を求
める。

③ 次年度教育課程編成にむけた超勤対策に
ついて確認する。

・ アンケートを実施し、削減するもの、
規模を縮小するもの、統合するものなど
具体的にまとめる。

④ タイムカード等の打刻が精確に行われて
いるか推進委員会で確認する。

※話し合われたことは必ず議事録に残す。

※議事の内容は、全職員で共有する。

飛躍的な組織拡大をめざして 年末・年始期間のとくみ

12月20日(金)～1月10日(金)

- スタッフアクション
- 1分会1オルグ
- 加入サポートキャンペーン
- 新採者サポートキャンペーン
- 仲間づくりアクション!



専門部より ご案内

第63次鹿児島県学校事務研究集会
2025年2月1日(土)～2日(日)

県養護教員部研究集会
2025年2月1日(土)

第48回障害児教育研究集会
2025年2月15日(土)

青年教研2025
2025年2月22日(土)



編集後記

「組合員のとびき2024」の278ページからここ数年(とはいえ、40年分)鹿教組による権利・賃金闘争の経過が載っています。この数ページだけでも、組合の闘いが教職員の権利拡大・働きやすい職場環境に繋がっていることが実感できます。以前、先輩から「自分には必要なくなった権利(育児休業)だったけれど、後輩たちが働きやすい環境をつくりだすために闘った、でも『これまでも、その環境(産前産後休暇のみ)で働いてきたのだから、ぜいたくな要求だ』と心ない言葉もかけられたりもした」と聞きました。先輩方の「しなやかでしたたかな」闘いのおかげで、かつては『ぜいたく』といわれたことかもしれません、当然の権利として行使することができています。感謝の気持ちと闘い続けることの大切さを感じます。有言実行で闘い続けてきた先輩方の、あつい思いを感じられる退女教・退教協活動報告をお届けします。